



官位訓  
二

9

73  
3104  
2





保  
3.104

外傳



官位訓考之二目錄

一 文武官事

并平治乃乱起り  
附 二系園白所通乃事

二 大臣家ノ事

并道遠院實際公乃事  
附 後十輪院通村云乃事

三 諸家の事

并九右衛門忠良云乃事  
附 友系押務乃例

四 天文暦乃事

并安戸晴乃事  
附 泰親公云乃事  
泰親公云乃事

官位訓考之二目錄



五 六条家ル

并修平太夫顯季ル  
附内大臣有房云内子がル  
并行啓ル事

六 御幸ル

附園融院大井川ル御遊ル  
并脱履ル乃事

七 帝王ル

并太上皇尊號ル乃事

八 新院ル

并熊野ル乃事

九 法皇ル

- 十 院系ル公家ル元ル始ル乃事  
并布衣始ル乃事
- 十一 一人ル乃事  
并凡人ル乃事
- 十二 滝ル乃事  
并畠山伊東ル乃事
- 十三 諸家源氏ル乃事  
并神祇伯ル乃事
- 十四 院系ル乃事  
并欽ル乃事
- 十五 帝力ル乃事  
并本ル乃事







之又凡人よかりてといふく眉目やわりのもを極家清華  
 の亦此所家よりし後天の如くはしるべきやうと  
 かりし所をがかりたそをぬさるる例に極大綱云大綱  
 如後ぬふ者よ後之二条此國の所通云孝儀の附大綱を  
 かけ給ひ一申と云ぬの所をがらふつてくぞう  
 に大綱の武官の如極とてくきりたり極の極ぬれ  
 し平治の乱の事とは。權中綱云兼中又權云又左系  
 信賴とく少納云入る信賴と申わくしては小身とは  
 ろり一君とてぬの民をくく先をぞうぞうとて一  
 きとも將の上皇の所親をがらりと信賴と大綱云

のぞもりさねるる上皇信賴と極せありてかゝる事と  
 重代清和の家よ後くされとて時ふくく大綱ふた  
 らくともさるる事との時信賴世の中極いと極く事  
 つけか。信賴をがら大綱よぬるを誰ららとつけい  
 らん君の所政と司を成とて先とん叙位除同と極  
 かまぬ事と上天の難く小省は下人の賤りともさ  
 世のふんごう極く事例和漢よ多しされをよや阿左丸  
 大綱云宗通と。白河院の大綱ふたると思はるる  
 や實治の極と事所のゆかりた故中門後中綱云  
 家成卿を舊院大綱言ふるさるやと極く事かとも



大納言の式納言ふかり事と終るべく申納言ふかり  
よりだよりさうられりすと終りいさ先りさうらるるを四向や  
治ぬ規や遊席の大納言や。云云に列とれと大納言と終る  
る長下のものり執柄の息莫大納言と比職と終る  
と比職頼むと身と比と大納言とけがす事いさま  
るりといさめりして終りいさまやと比より比職頼むい  
とと合く平治の礼とよりけり終りいさ職のありさ  
とのべんが為小田舎の人事と終る平治の礼と終り  
と終り終る信納言と終る。と終る大納言のおごりや  
と終るべしとや

二 大納言の御事

三家の御事と行田舎の人と備事とのとひあつり。  
大納言とよりて又持家九清華乃介と御三家の  
正親所三条殿 中院殿 三条西殿 是と大納言と終  
り。と終る持家清和の如く大納言と終り終るは云  
の列は如終る御事。御事の付従五位下首服と加つるの  
付従五位上又ハ正五位下中おわと終るハ宰相お終る  
又ハ直よ納言よのり終るをわり長官の長らる大納言  
兼終るはさゆ人空大納言と終りと終り競るをたつて大納  
言より終るハ是御事と終りと終り正親所三条殿











乃瓊とつひ継りと後代は妙とてさしに正徳乃とてふ  
後世不承すともや。去程不晴のまに今昔乃の神今  
てその後承継などいつつと希代の神とてふと  
こは春歌とて承乃の神も信くけるお母一雷落る  
つとこれとて何れ障りともある一平家物とてりあを志  
あつと何とて奇妙とて語りてそりそ外人れつと世  
あふ書のもせぬを家承のつとふ及す志とてふえ祖傳悪  
か眼力とてめ哲かりとの形り磨道を光榮のやとれよ  
て今よ河色ともいひてふ人志とて安信の家物とていふ  
所つと号して今ぬ天文たてと掌つと給ひて風雲と氣

とて養育ありともや晴明より十七代の後有備とあり  
お中つとすす祿号とてり從之信お教とてりて目録  
ありて今春連の信おつて七代かり二位おとめ  
お所家とてや

⑤ 六条家の事

今乃六条殿と姓昔初乃の家は六条の所末とてふ  
人あり信りたり傳事承つて死所あり信昔六条  
家とてわ奇乃一流とたてられへ藤原の奥に苗  
藤原持はる澄經の孫六条の信理を又顯季其子な家  
形物とて信物重家顯法師おたりとて有家知家と



と顯輔の孫として先方の人ととむかひの六条家とせりたり。  
定家卿の又後成々としていぬの孫の事ありては、  
しやうか後上風神とわくを免給ひて、  
終つり。叔今の六条家とす村と治民とく久我家のまこれ  
とるたが通有の事と知して六条家とす稱号を奪り  
くわひ通有、長の子内大臣とす房ととせり。とむ漢  
乃乃に家也孫のうへに類をく能くしてわく内も  
保るるも一人切はえに同なる肥馬の産とす。い給ふ  
あつたの賢良なれして、  
ぬきくはる房と病弱老志よぬ給ひて、  
中城天徳よ

達しあれど花園の法皇平四代萩御がなり。む乃  
余りふ有房との事、  
終つり。つと代はくやのそとくもあつた  
まこと、  
の病成とくも終つり。事なり。とんや末代はあつて  
ら終られまふ。とくもいふ大友のいそをい給ふ。その  
くみといひ、  
かんぞ、  
せう、  
お軍



























刀とのすゝ。春之よに人あり。禁中より院に召し出され  
まゝの六部力あり。まゝも子ゆゑ遠くつゝも皆共執と奉  
して發固とつゝも授けり。源平重代乃武士氣勇  
乃亦わらばえりして奉刀お務せり。方り春之坊  
のうらみ。刀と奉す。ゆゑのうらみ。三十人乃也  
計よ其思量とえり。いゝ上着とす。こゝろは是を  
奉刀先生とす。其骨義仲の又義賢と奉刀先生  
とす。い。は頼ひ。又衛門公清の侍れ。奉刀お務する。以  
若し清の奉刀お務とて。よか。なる。え。外傳

官位 訓卷之二終



